

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：ぶれすと綱島ほいくえん	種別：認可保育所
代表者氏名：馬場 三保	定員（利用人数）：60名（73名）
所在地：〒222-0001 横浜市港北区樽町2丁目3-1 1階	
TEL：045-947-2730	ホームページ： https://hoikuen.brest.co.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2020年04月01日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社プレストインターナショナル	
職員数	常勤職員：20名 非常勤職員：4名
専門職員	（専門職の名称）：名 看護師：1名
	保育士：16名 栄養士：2名
	保育補助：2名 調理師：2名
施設・設備 の概要	（居室数） 居室：0歳児室 設備：調理室
	居室：1歳児室 設備：調乳コーナー
	居室：2歳児室 設備：乳児・幼児トイレ兼沐浴室
	居室：3歳児室 設備：職員用トイレ
	居室：4歳児室 設備：誰でもトイレ
	居室：5歳児室 設備：相談室
	設備：職員室兼医務室
	設備：休憩室
	設備：更衣室
設備：園庭	

③理念・基本方針

<理念>

違いを認めて学び合う

<保育方針>

1. まなびがあそびで あそびがまなび
2. 思いやりの心を育てる

<保育目標>（ぶれすとほいくえんの3つの願い）

1. あいさつがしっかりできる子
2. 自分の考えがしっかりもてる子
3. 自信を持って夢をもつ子

<卒園目標（5歳児）>

【英語】 オールイングリッシュによる英語劇

【算数】 2ケタの足し算・引き算

【国語】 ひらがな・カタカナの読み書き、氏名の記入（ひらがな・カタカナ・漢字・ローマ字）

④施設・事業所の特徴的な取組

<運営方針>

1. ぶれすと綱島ほいくえんは、良質な水準かつ適切な内容の保育・教育の提供を行うことにより、全ての子どもが健やかに成長するために適切な環境が等しく確保されることを目指す。

2. 保育・教育の提供にあたっては、子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進するため、利用子どもの意思及び人格を尊重して保育・教育を提供するよう努める。

3. ぶれすと綱島ほいくえんは、利用子どもの属する家庭及び地域との結び付きを重視した運営を行うとともにその支援を行い、都道府県、市町村、小学校、他の特定教育・保育施設等、地域子ども・子育て支援事業を行う者、他の児童福祉施設その他の学校又は保険医療サービス若しくは福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

<ぶれすと綱島ほいくえんの特徴的な取り組み>

【全園児】 英語が学べる認可保育園として、外国人スタッフをはじめ、様々な人とコミュニケーションを取ることでグローバル保育を実践する

【乳児】 遊びの中から学び取る

【幼児】 小学校に向けたアドバンテージ学習の実施

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年09月13日（契約日） ～ 2023年04月20日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（年度）

⑥総評

【ぶれすと綱島ほいくえんの概要】

●ぶれすと綱島ほいくえんは、株式会社ブレストインターナショナル（以下、法人という）の経営です。法人は、横浜市に本社を置き、横浜市5園、川崎市に1園、計6園の認可保育園と小規模保育事業を展開しています。法人では、「世界で活躍できるよう、子供たちを育てる」ことを理念とし、「英語が学べる保育園」を謳っています。そこには、「英語を通して文化、言語、考え方の違いを知り認め合う自分の周りから世界に目を向けてほしい」という願いを持ち、英語教育に力を入れています。また、法人系列園ごとに知育玩具を探求し、ねらいに沿って備え、加えて、「小学校準備講座」として4歳、5歳児を対象に就学を見据えた国語・算数の授業も取り入れています。さらに、課外での体操教室等を開催して習い事の需要に対応する等、大きな学び、多くの体験ができるグローバル感覚の保育を提供しています。

●ぶれすと綱島ほいくえんでは、理念に沿い、グローバルな社会、世界に将来飛び出していく子どもたちに、「違いを誇る心」を育むことを保育方針としています。保育方針の1つ目に、「まなびがあそび、あそびがまなび」を掲げ、心豊かな成長を「あそび」の中で育成し、様々な遊び（体験）を通して表現力・創造力・自立心を育み、自分の言葉で自分の気持ちを表現できる基礎作りをします。2つめに、「思いやり

の心を育てる」とし、一人ひとりを大切に、子どもと大人が共に感動・成長し、「育ち合い」の環境を大切にした保育を実践しています。世界へ飛び出す子どもたちを、「ぶれすと綱島ほいくえん」から育てていきます。

●ぶれすと綱島ほいくえんは、マンションや戸建てのある閑静な住宅地の中に位置し、同ビル2階には法人系列園の「ぶれすと綱島二階ほいくえん」があります。ぶれすと綱島ほいくえんの園舎は、保育室は全て1階に集中し、園庭への出入りから災害時の避難にも配慮した設計で、子ども、職員が快適に過ごせるよう工夫されています。周辺は自然に恵まれ、その恩恵を生かし、子どもたちに楽しい園生活を提供しています。職員は、一人ひとりの子どもの発達、気持ちを受け止め・共感し、見守る姿勢を持ち、温かい保育を実践しています。そして、子どもたちに様々な体験を提供し、自信と行動意欲を育みながら丁寧に保育に当たっています。

◇特長や今後期待される点

1. 【一貫した法人理念の理解・実践】

ぶれすと綱島ほいくえんの運営方針の根底にあるものは、「一貫した法人理念」にあります。法人理念に則り、園の理念が決められ、法人理念のブレない軸こそがこの保育園の強みとなっています。法人トップの責任とはブレない方針を決め、教育し、執拗にそれを求めていく、この精神が園長自身と保育に反映されています。この法人理念を3つに分類するとすれば、①「方向性」、②「精神」、③「執心」が考えられ、方向性とは、開拓者(Blazer)が信じた道を正しい道(Right Way)として信じて進め、との意に解することができ、正に、ぶれすと綱島ほいくえんの理念「違いを認めて学び合う」が証となっています。精神では、理念を支えることができる人材育成を考え、教育の資料を揃え、ノウハウの蓄積に努めています。保育の匠(Expert)は、子どもや保護者に魂(Spirit)を持って接することが重要であり、日々実践へとつなげています。方向性と精神があれば法人理念は達成できますが、③の執心が(法人の方向性・精神に)揺るぎない徹頭徹尾(Thoroughly)なものとして保育姿勢の中に根付いています。法人・保育園・保育士が理念を信じ、理念を具現化した保育の実践から、利用者の信頼が生まれ、より良い園作りへとつながっています。

2. 【てぶらdeほいく】

法人では、保護者・保育士の負担軽減を同時に実現するサブスクサービスとして、令和4年より全園児希望制にて「てぶらdeほいく」のサービスを提供しています。保護者の負担軽減、経済的メリットと共に、廃棄ロスによるSDGsへの取り組み、過負荷になっている保育士の負担軽減を考えて取り組んでいます。保護者の毎日の荷物、シーツや布団洗いの付加を「てぶら」へと変え、また、子どもの服が汚れた際の対応も可能にしています。保育士へは、在庫確認等の業務を削減し、個別管理やランドリーボックスを利用することによってストレス等を軽減すると同時に、子ども、保護者と関われるゆとりの時間を確保して双方にメリットをもたらせています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：株式会社プレストインターナショナル ぶれすと綱島ほいくえん

<評価(自己評価等)に取り組んだ感想>

開園よりコロナ禍でスタートして3年目を迎え、初めて第三者評価を受けさせていただきました。受審するにあたり、改めて職員一人ひとりが自己分析・自己評価を行うことで、

園全体での評価基準を再度確認し合い、チーム保育で保育の質を高めていく意識向上に繋げていくことが出来ました。また、保護者の方々のアンケート結果を基にこれからの園運営に生かしていける気付きとなりました。

園としての長所はさらに伸ばし、短所となる点に関しては、再度見直して分析した上で改善に取り組み、今後も安心して預けていただけるよう、努力していきたいと思えます。ありがとうございました。

<評価後取り組んだ事として>

1. 日々の保育の振り返りや子ども達の発達に見合った保育のさらなる実践について、園全体で取り組みました。
2. 保護者の方の考えや思いをしっかりと受け止めていく環境を整備し、園からの発信についても、きちんと意図を伝え、より丁寧に対応することを職員全体で心がけました。
3. 会社の理念に基づく保育の実践をさらに進め、地域に根差す保育、社会のニーズに合った保育など考える機会を増やしていきました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり